

心の輪を広げる体験作文 中学生部門 優秀賞

「兄との暮らし」

相模原市立大沢中学校 二年 高橋 徳行

たかはし とくゆき

僕は、障害者だからといって差別するのは間違っていると思います。

僕には障害を持った高校二年生の兄がいます。生まれた時から兄と一緒に暮らしてきて気づいたことがあります。それは、障害者も障害のない人と同じだということです。

兄は好きなことや嫌いなことがあり、得意なことや苦手なこともあります。これは、障害のない人だけが持つ心ではなく、障害のある人も持っている自分の気持ちだと思います。例えば、兄はジャニーズの嵐が好きだけど、学校が嫌い、みんなと同じような気持ちを持っていきます。

また兄の学校に行った時、絵を描くことが得意な人が絵を描いたり、物を作るのが好きな人は物を作っていたりする姿を見かけました。みんなが自由に学校生活を送っていて、それぞれが意志を持ち、楽しく暮らす姿が障害のない人と同じで、うれしく思いました。

それ以外でも、兄は自分で行動することができます。自分でお腹がすいたら食べ物を食べたり、自分からジュースを買いに行ったりします。これも、みんなと同じです。

例えば足に障害がある人が、障害があるからと言って何もしなくなるのではなく、少しでも自分で行動できるよう車いすや義足をつけることを選ぶこともあります。これは、他の障害を持った人も同

じょうにできるだけ自分で行動するという意志があるからだと思
います。

障害者だからといい、何もできないわけではなく、自分の心を持
ち行動できます。このようなことから、障害のある人も障害のない
人も同じで、差別するのは間違っていると思います。